



いちご・ぶどう・もも・なし・かんしょの輸出が増加傾向 都内で日本産青果物の輸出促進をPR!

青果物輸出全国マッチングセミナー

- 期日：7月2日(月)
- 場所：JPタワーホール&カンファレンス
- 主催：日本青果物輸出促進協議会
- 内容：農林水産省・輸出業者・生産者による講演・展示・相談会

2019年までに輸出額1兆円を目標

農林水産物・食品の輸出については「2019年までに輸出額1兆円」を目標に、官民一体となった取組が進められています。また、輸出は需要先のひとつとして、今後の産地発展のために重要性を高めていくと考えられています。

そこで、海外から人気の高い日本の青果物について、輸出に関心のある生産者や産地の皆様の参加のもと、輸出の方法や具体的な海外ニーズの情報、先進産地や輸出業者等の関係者との出会いの機会を提供し、意欲ある方々の取組が発展していくためのコミュニティ形成を目指す目的で、今回のセミナーが開催されました。

今回は、青果物の輸出をめぐる情勢・輸出のチャンス・輸出のアドバイス・輸出に関する支援情報についての講演、日本の青果物の促進にまつわるポスター・タペストリー・リーフレットや関連商品の展示、講演者・講演企業による輸出にまつわる相談会、生産者と輸出業者とのマッチングのための交流会が行われ、輸出業者・輸出に取組意向のある生産者・農業法人・JA・都道府県から300名程度が参加し、本県からも全農県本部担当者と沼田市のりんご生産者が参加しました。

新たな流通形態の開発も期待!

「青果物の輸出をめぐる情勢」について農林水産省から説明がありました。日本国内の市場が縮小する中でアジアを中心とした食市場は拡大しており、「小さいさつまいも」「黄色いりんご」等国内より海外で人気の高いサイズや品質もあり、新たな流通形態の開発も期待されています。現状、輸出の主力品目はりんごとながいもですが、いちご・ぶどう・もも等が伸びており品目が多様化しています。また、かんしょ・たまねぎ等の野菜も輸出の増加が期待されています。

その他にも、九州農産物通商(株)・全農・東京青果(株)・Wismettac フーズ(株)・全農あおもり等から輸出に関する様々な講演があり、輸出先国へ途切れなく供給できるように複数産地や品種を組み合わせた「リレー出荷」や複数産地の生産者・輸出業者が容易に交流できるコミュニティ形成の重要性を提案していました。また、輸出業者との相談会も開催され、国産果実が少なくなる4月も輸出できる「やよいひめ」が注目されました。



Wismettacフーズ(株)展示



全農あおもり展示



福岡県産品輸出促進協議会資料



ブランドおおいだ輸出促進協議会資料